

Costume and Textile

No. 46

服飾文化学会会報

2023年9月

2023（令和5）年度 第24回服飾文化学会 大会のお知らせ

2023年5月20日（土）に、相模女子大学と女子美術大学の2大学が共同で担当校となり、第24回総会・大会を開催いたしました。大会開催時には新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられておりましたが、大会の企画を開始した2022年の4月にはまだコロナ対応の予測が困難でした。そこで、確実な開催実施を目指し、前年度同様にオンラインでのZoom開催といたしました。

当日の参加者総数は80名（正会員67名、非会員2名、学生会員2名、学生非会員9名（申し込み総数：85名））でした。また、終了後のアンケートには36名の方がご回答くださいました。

皆様のご協力を得ながら盛会裏に終えることができ、厚く御礼申し上げます。

1. 特別講演

玉田真紀会長による開会の辞に続いて、開催校である相模女子大学にお越しくくださった子供服デザイナーの長村律子氏により講演が行われました（図1）。



図1 オンラインにて講演中の長村氏

長村氏は、HIROKO KOSHINO BABY や YUMI KATSURA BABYなどのハイクオリティーなライセンスブランドを経験した後、株式会社ナルミヤ・イン

ターナショナルにて冠婚葬祭や発表会などのオケージョンシーンにも好まれるmezzo piano、贈答品としても支持が高いsense of wonder、カラフルでPOPなデザインのBaby Cheerなど、数々のBABYやKIDSのブランドでチーフデザイナーとして携われてきました。

ご講演のテーマは「未来を担う子供たちに夢を与える一物創りへのこだわりと子供服業界のこれから」でした。

子供服の特徴、ブランドによる差別化の方法、撮影時の役割、デジタルカタログの制作過程など、実際の展示会商品を実例にリアルなデザイナー業務を教えてくださいました。その中で特に印象的であったのは、撮影時のエピソードでした。図2は左右共に同じキッズモデルですが、左側のクラシックなデザインの際には大人しく、右側のカラフルでPOPなデザインの際にははしゃぎ笑顔が多くなるなど、自然に表情や行動に差が生まれたそうです。自分の気持ちに素直な子供だからこそ、デザインのもたらす影響力が強いことを感じさせていただきました。

また、情報収集の方法や、コロナ禍に伴う販売方法の変化など、アパレル業界の動向に伴う情報も具体的に教えていただきました。

そして、ファストファッションが台頭している現代を生きる若い世代に向けて、クオリティの高いモノを知ることの重要性や、アパレル業界が求める人材などについても語っていただきました。

このように、多岐に渡る情報と、実践しやすい具体的な方法など、アパレル業界を目指す学生やその指導者の皆様が活用しやすい内容が詰まった講演会でした。

なお、以下はアンケートからの抜粋です。

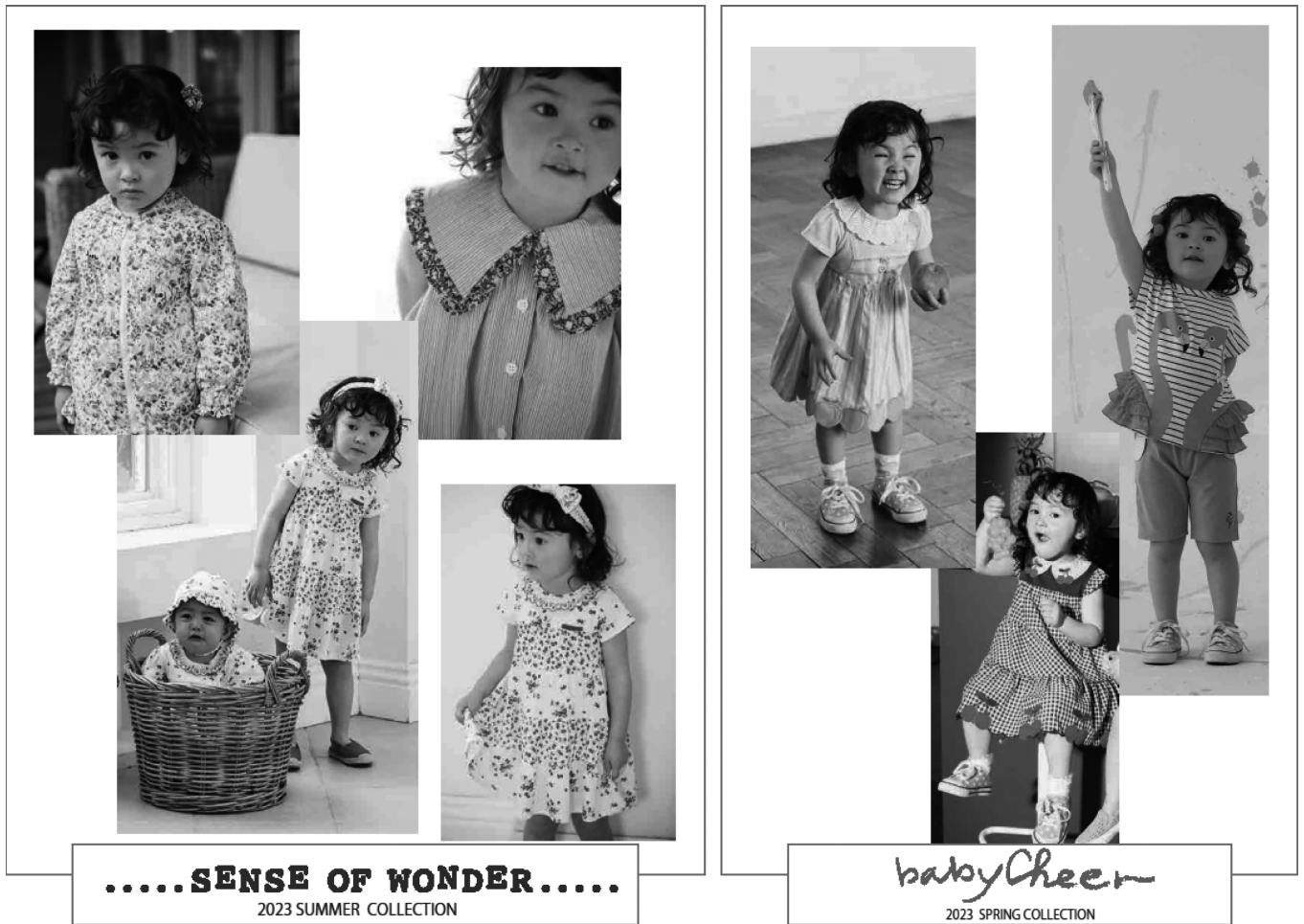


図2 デザインによるキッズモデルの表情の変化

(アンケート：自由記述)

- ・歴史から現代まで網羅的にお話しいただけて、服飾に携わる人間として一人の親としても非常に興味深く聞かせていただきました。
- ・こういった商品企画の裏舞台は、普段中々知り得ない為、充実した学びとなりました。
- ・子供服ならではの視点での工夫やこだわりを知ることができ、勉強になりました。また、講演のタイトルにもあるように、子供の心にも良い影響を与えるためには、着心地の良い服や着ていてワクワクする服を作ることの重要さが分かりました。

2. 口頭発表、ポスター・作品発表

研究発表件数は、口頭発表2件、ポスター発表1件、作品発表4件(図3)の合計7件でした。服飾史、手工芸、サステイナブルファッション、デザイン提案、展示提案など、本学会らしく多岐に渡る視点からご発表をしていただけました。

なお、以下はアンケートからの抜粋です。

(アンケート：自由記述)

- ・ご研究の時期はまだコロナ禍でしたのに、着実に進められ、充実した内容でした。
- ・分野が多岐に渡り大変興味深く拝聴いたしました。
- ・質疑応答の時間がもう少し長くてもよろしいのかと感じました。
- ・作品発表はショートスピーチでは伝わり難く、やはり対面で作品を見たいと思いました。

3. その他

今回はコロナウィルスに伴う3年目のオンライン開催となりました。私たち主催者だけでなく、ご講演者や聴講者の皆様もオンラインに慣れてきたこともあり、滞りなく無事に開催することができました。ご協力いただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。

なお、いよいよ来年度は待ち望まれておりました対



図3 左側：裏地付き横編みニットの衣服 (C-2)
右側：アールヌーヴォー時代の髪型のマネキン用紙カツラ (C-3)

面開催の可能性が高くなっております。皆様のご研究内容を直接聴講できることで、ディスカッションも深まることでしょう。今から、活気あふれる大会となることを想像し期待が膨らんでおります。

(大会開催校・理事：相模女子大学 角田千枝、女子美術大学 大崎綾子、藤井裕子)

<第24回総会・大会プログラム>

【開会の辞】会長 玉田真紀 (尚絅学院大学)

【特別講演】講師 長村 律子氏 (子供服デザイナー、株式会社ナルミヤ・インターナショナル)

テーマ「未来を担う子供たちに夢を与える一物創りへのこだわりと子供服業界のこれから」

【口頭研究発表】

座長 藤井裕子 女子美術大学

A-1 「梅津コレクションからみる個人コレクションの問題点」

大妻女子大学 須藤 良子

座長 田中淑江 共立女子大学

A-2 「美術学校における刺繍教育」

女子美術大学 大崎 綾子

【ポスター・作品発表 ショートスピーチ】

座長 玉田真紀 尚絅学院大学

B-1 「リメイク授業における地域貢献の取組み」

サステナブルファッションショーに参加して
ー」

徳島文理大学短期大学部 藤本 和賀代

座長 中川麻子 大妻女子大学

C-1 「彝族衣装の紋様を活かしたファッションデザイン画」

滋賀県立大学大学院 O WANG YI、森下 あおい

座長 角田千枝 相模女子大学

C-2 「Knit wear with liner 裏地付き横編みニット衣服の製造方法の検討」

文化学園大学 若月 宣行

座長 新實五穂 お茶の水女子大学

C-3 「アールヌーヴォー時代の髪型のマネキン用紙カツラ」

大阪樟蔭女子大学 真殿 由加里

座長 新實五穂 お茶の水女子大学

C-4 「西洋服飾史実物資料のレプリカ制作(7)ージャック・ドゥーセのレセプションドレスー」

東京家政大学 倉 みゆき

【閉会の辞】副会長 内村理奈 (日本女子大学)

【総会】

特集記事 著書 『名画のコスチューム—拡大でみる60の職業小事典—』 紹介

内村理奈



内村理奈著
創元社
2023年5月発行

本作は、2021年に上梓した『名画のドレス—拡大でみる60の服飾小事典—』（平凡社）の姉妹編ともいべきものである。前作では、西洋服飾史の主要な対象でもある王侯貴族の衣装に焦点をあて、それらが描かれている名画をピックアップし、服飾用語を60点とりあげ、それらの解説を試みた。いっぽう、本作では、服飾史において見過ごされがちな一般の人びとの日常身につけていたであろう衣服に着目して、それらを解説したものとなった。時代は前作よりもすこし広げ、中世から20世紀初頭までの絵画を扱った。市井の人びとに着目したため、さまざまな職業の人びとの衣服をひもといたことになる。しかし、解説とはいえ、筆者の私見も多分に含まれているし、ひとつの職業（つまりひとつのコスチューム）につき2ページほどの短い文章を書いたものなので、エッセイ集のような趣でもある。昔の西洋絵画に描かれたさまざまな職業に興味がある人も、また、さまざまな名もない人びとの衣服に興味がある人も、また西洋絵画自体に興味がある人や、もちろん服飾そのものに関心のある人にも、それぞれの興味にあわせて、気軽に読んでいただけたらと思う。本作も前作も、取り上げる絵画1枚につき、全体像と、部分拡大図を掲載しているから、小さな画集としても楽しんでもらえるだろう。

本書の「はじめに」で示したように、コスチュームという語は、英語でもフランス語でもcostumeと記すが、その語源は「(国や社会などの) 習慣、慣習、風習」といった意味をもつ言葉である。そこから、絵画の用語として用いられるようになった19世紀には「その時代の建造物や、調度品、武具を再現する際のリアリティ」を意

味するようになった。つまり、絵画などの芸術において、その迫真性を高めるために必要不可欠な背景や小道具などが、コスチュームであって、そこからさらに、描かれている人物が身につけている衣服もこの言葉で呼ばれるようになったのである。したがって、コスチュームとは、時代や国、あるいは職業、地位、身分などをリアルに表現するものである。舞台衣装がコスチュームと呼ばれるのは、それゆえである。

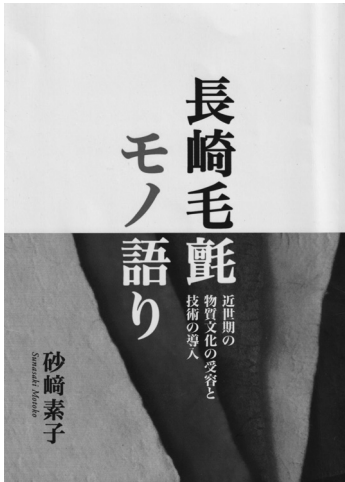
上述のように、西洋服飾史は、王侯貴族の煌びやかな最新流行の服飾をたどる傾向が、長く続いてきた。「流行」「ファッション」「モード」といったものは、長く社会の頂点に位置する特権的な人びとが握ってきたからである。とりわけ古い時代（中世から近代）の西洋社会ではその傾向が強かった。それゆえに、市井の人びとの普通の衣生活に目を向けられることは少なかったように思う。彼らは最先端のファッションを身につけるのではなく、むしろ彼らの職業や身分に固有の衣服を、何十年も何百年も着続けている可能性もある。世の中が移り変わっても、変化することの少ない日常の服である。しかし、これらもまた、衣服の歴史であることに変わりはない。

また、絵画に描かれる服飾は、それらがすべて本当に現実のものであったかどうかは、判断が難しい。絵画に描かれる服飾は、リアルとフィクションのはざまにあるようなものなので、そこは慎重に吟味する必要がある。けれどもおそらく、画家は、その人物像を表すのもっとも適切な衣装を選んで（あるいはモデルに身につけさせて）描いていたはずなので、その意味では、「真実の姿」を映し出しているともいえるのではないか。画家は、描く人物の職業や身分にもっともふさわしく、さらには、その内面をも映し出すようなコスチュームを描いたのではないかと思う。その部分をすこしでも読み解きたいと考えた。

このような試みがどこまで成功しているかわからないが、服飾史において絵画資料を扱うことの意味をも問いかけることができている、と思う。扱った絵画は実際には名画ばかりともいえないのだが、まずは目で見て、多様な職業や身分の服飾の面白さを感じていただければ、嬉しいと思う。

特集記事 著書 『長崎毛氈モノ語り 近世期の物質文化の受容と技術の導入』 紹介

砂崎素子（長崎毛氈研究所）



砂崎素子著
長崎文献社
2022年2月発行

毛氈もうせんといえば茶席をはじめ、雛祭り、婚礼などのハレの場で使用される緋毛氈が思い浮かぶだろう。このように緋毛氈は、現代の日本の文化の中に定着しているが、本書で取り上げる毛氈は、近世期に長崎唐人貿易より輸入された毛製品である。中世期に中国・朝鮮などからもたらされた毛氈は、聖武天皇の愛用品として正倉院に遺るが、近世期の貿易品の毛氈は荷揚げ、入札などの手続きを経て取引され、将軍、大名はもとより、町人階層へと行き渡った。近世期に輸入された毛氈はどのようなもので、長崎においてどのように使用されていたのだろうか。さらに、なぜ輸入品の毛氈を長崎の地場産業として育成しようとしたのだろうか。本書『長崎毛氈モノ語り』では、これまであまり明らかにされていなかった近世期における毛氈の実態と史実を明らかにしようと、物質文化の受容と技術の導入を中心にすえながら書きまとめた。

本書の構成は、

- I. 長崎唐人貿易 舶載毛製品毛氈の受容
- II. 長崎における毛氈文化の受容
- III. 長崎事始め 毛氈技術の導入
- IV. 長崎の地場産業として育成する試み
- V. 検証 長崎歴史文化博物館蔵
「毛氈製造手續并道具繪圖」と既報毛氈製造書
もうせんせいぞうてつづきならびにどうぐえず
- VI. 小モノ語り、の6つである。

I では『唐船輸出入品数量一覽1637～1833年復元どうせんかもつあらためちよう きほんにもつかいわたしちよう 唐船貨物改帳・帰帆荷物買渡帳』をもとに、毛氈の輸入量などを述べた。また、輸入品名から色・柄模様・品質等が推察され、多種多様な毛氈が流入していたことを述べた。II では『長崎市史』の風俗編を検証し、紙鳶揚はたあげ、盂蘭盆會うらぼんえ、諏訪神事、祝い事で緋毛氈が使われていたことを述べた。このような伝統行事の中での緋毛氈の使用は中国人の風俗の影響を受けたものと考えられ、それについては『清俗紀聞しんぞくきぶん』で確認した。III では、研究過程で新たに所在が確認できた長崎歴史文化博物館蔵の毛氈製造書を翻刻した。着色挿図と照らし合わせながら、招へいした中国人技術者の実演による毛氈の製造法、染色法を明らかにした。また、製造書の挿図から毛氈を地場産業として育成するための必要な立地、道具についても明らかにした。IV では、貿易品として輸入されていた毛氈をなぜ長崎の地場産業として育成しようとしたのか、幕府の令書をたどり、その背景と国策を確かめた。V では、長崎歴史文化博物館蔵の毛氈製造書と既報毛氈製造書とを比較検証し、長崎歴史文化博物館蔵の毛氈製造書は現存する毛氈製造書の源流と考えられることを述べた。VI では、毛氈・毛織物・羊の小モノ語りとして、遠山景晋かげみち（後の長崎奉行）が見分した毛氈製造、同時期に地場産業を目指した毛織物、安政時代の毛織物の企て、羊の飼養について触れた。

多様な輸入毛氈の中でも緋毛氈は長崎の祭礼の場で使用され、季節や人生の節目の行事を彩っていた。そこには、中国の祭祀の風俗に倣った文化の受容が窺われた。また、文化元年（1804）に導入された毛氈技術は、長崎唐人貿易品の輸出品であった銅の流出をおさえるために自国生産し、毛氈を長崎の地場産業として育成するために図られた。

近世期の毛氈の実態を表わし、長崎の歴史の一部でもあるこれらの史実が、服飾文化研究の一助になることを願っている。

2023 (令和5) 年度 服飾文化セミナーの報告

はじめに

今年度の服飾文化セミナーは、静岡県掛川市にあります資生堂企業資料館で開催いたしました。

残暑の厳しい季節の開催ではございましたが、当日は、22名の方々がご参加くださいました。内訳は、正会員18名、非会員4名です。

資生堂は1872(明治5)年に国内初の民間洋風調剤薬局として創業し、昨年2022年に150周年を迎えました。同館はその歴史を伝える資料館として、化粧文化、企業文化としては勿論のこと、日本近代デザイン史において、宣伝広告やパッケージデザイン、更にはファッション・メディアとしても重要な位置を占めています。今回、資生堂企業資料館のご厚意により、大木敏行館長によるご講演、資料館の展示、バックヤード、アートハウスを見学させていただき好機に恵まれました。

概要

■ 資生堂企業資料館 講演会と館内見学

<日時> 2023年(令和5年)9月5日(火)
13:00~16:30

<会場> 資生堂企業資料館(静岡県掛川市)
<https://corp.shiseido.com/corporate-museum/jp/>
アクセス: JR「掛川駅」下車、南口よりタクシーで5分、徒歩20分。

<プログラム>

- 12:30 受付(資料館入口)
- 13:00 開会の辞
会長: 玉田真紀(尚絅学院大学)
- 13:05 講演「資生堂のDNAを探して」
講師: 大木敏行氏(資生堂企業資料館 館長)
- 14:00 質疑応答
- 14:30 館内ツアー(バックヤード、アートハウス等) ※途中休憩挟む
- 16:45 セミナー終了後、掛川市内の懇親会会場へ移動(希望者のみ)
- 17:30 懇親会(うなぎ・和食処「新泉」)
乾杯のご挨拶
理事: 須藤良子(大妻女子大学)

■ 申し込み期間と方法

<期間> 5月22日(月)~8月29日(火)

<方法> QRコードおよびURLを記載し、申し込みフォームよりお申し込みいただきました。

■ 参加費(当日受付でお支払い)

会 員 300円

非 会 員 500円

学生会員・学生非会員(大学院生, 大学生)以下 無料

講師プロフィール

大木敏行氏(資生堂企業資料館 館長)

1980年 資生堂入社

秋田 赴任

1985年 神戸 赴任

1990年 医薬品事業部

2006年 ヘルスケア事業部 兼 資生堂薬品(株) 兼 資生堂ビューティーフーズ(株)

2008年 エテュセ

2013年 資生堂企業資料館・アートハウス(旧企業文化部)

2018年 資生堂企業資料館

2023年 現在に至る

講演会

本セミナーでは、大木敏行館長から「資生堂の企業文化とは」「資生堂のオリジン」「福原信三と松本昇」「反資生堂スタイル」「受け継がれる資生堂精神・美意識」という内容でご講演いただきました。150年の歴史を持つ資生堂の取り組みについて、「変わらないために変り続けてきたこと」、「本物価値と誠実さ、変革力と自立」、この二つの視点を基点として、その歴史を感じとる貴重な機会となりました。

講演会の最後には、会場中央のテーブルにご用意いただいた資料館所蔵のポスター等について解説していただき、資生堂に創業当時から受け継がれてきたポリシーについて理解を深めることができました。



講演会の様子

資生堂企業資料館および収蔵庫の見学

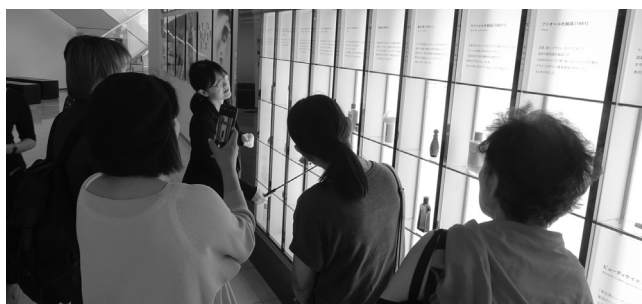
ご講演の後、大木敏行館長、市川よしか様に同資料館の展示について、ご解説いただきました。

展示室では、創業当初からの資生堂の商品やグラフィックに加え、今回の服飾文化セミナーのために特別に展示をしてくださった、三宅一生氏がデザインされた資生堂ビューティーコンサルタントの制服も鑑賞することができました。

また、普段は拝見できない貴重な資料管理の現場である収蔵庫も見学させていただきました。



資料館の見学の様子(1)



資料館の見学の様子(2)

資生堂アートハウスの展覧会鑑賞

資生堂アートハウスは、資料館と同じ敷地内に位置し、日本を代表する建築家である谷口吉生氏による初の美術館建築としても知られています。ここでは、開催中の展覧会「第二次 工藝を我らに 第四回展」(2023年7月27日-10月29日)を鑑賞しました。

会場には、「資生堂が提案する美しい生活のための

展覧会」をテーマに展示された工芸作品と実際にそれらが使用された食卓の写真が展示され、生活の中に美を取り入れることの重要性を学びました。



資生堂アートハウスの外観



見学中盤の記念写真

おわりに

収蔵庫見学中、貴重な香水の香りを楽しむ瞬間があり、参加された皆様からも感嘆の声があがりました。半日のプランではございましたが、貴重な体験をさせていただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、見学終了後、4年ぶりにひらかれた懇親会は、大木館長にもご参加いただき、皆様と和やかな雰囲気の中、会話を楽しむ一時となりました。未だコロナウイルス感染症による状況は終息を向かっておりませんが、少しずつ前進していることを感じる会となりました。



懇親会の様子

(服飾文化セミナー担当 菅野ももこ)

会計報告

①服飾文化学会 2022(令和4)年度 収支決算書 (2022年4月1日～2023年3月31日)

Table with 5 columns: 項目, 予算, 決算, 前年度との比較(△減), 備考. Rows include 収入 (1)年会費, (2)入会費, (3)年間購読料, (4)学会誌掲載料, (5)その他, (6)繰越金, (7)預金残額と出納帳残額との差額, 収入計, 支出 (1)経費, (2)事業費, 支出計, 収支差額, 次年度繰越金, (通常繰越金), (差異額分繰越金).

②服飾文化学会 2022(令和4)年度 財政調整積立金収支報告書

Table with 5 columns: 項目, 収入, 支出, 残高, 備考. Rows include 前年度繰越金, 総会・大会余剰金, 服飾文化セミナー不足金, 服飾文化基金 (R4年度, R22年度).

③服飾文化学会 2023(令和5)年度 予算 (2023年4月1日～2024年3月31日)

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度, 前年度との比較(△減), 備考. Rows include 収入 (1)年会費, (2)入会費, (3)年間購読料, (4)学会誌掲載料, (5)その他, (6)繰越金, 財政調整積立金の取崩し, 収入計, 支出 (1)経費, (2)事業費, 支出計, 収支差額.

④財政調整積立金及び服飾文化基金の増減

Table with 5 columns: 項目, R4年度末残高, 当期増加額, 当期減少額, 当期残高. Rows include 財政調整積立金, 服飾文化基金.

* H27年度より特別会計の名称を財政調整積立金と変更

*****事務局より*****

●【新入会員】会員異動(敬称略、申込順)

正会員 菊地 紗代(東北生活文化大学)
学生会員 WANG YI(滋賀県立大学大学院)

●退会者

塚本 和子、李 詩言、高木 たまき、宗 眞理子、増田 貴史、渡邊 恵、森 眸美、角田 奈歩

◇◇◇◇◇◇◇◇ 展覧会のお知らせ ◇◇◇◇◇◇◇◇

展覧会テーマ:日本の洋装化と文化学園のあゆみ

会期:2023年9月16日(土)～2023年11月13日(月)

会場:文化学園服飾博物館

開館時間:10:00～16:30*入館は閉館の30分前まで

*各展示期間中2回、金曜日に開館時間を延長しています。

(19時まで/入館は18時半まで)

休館日:日曜日・祝日・振替休日

展覧会テーマ:魔除け-見えない敵を服でブロック!

会期:2023年12月9日(土)～2024年2月14日(水)

会場:文化学園服飾博物館

開館時間:10:00～16:30*入館は閉館の30分前まで

*各展示期間中2回、金曜日に開館時間を延長しています。

(19時まで/入館は18時半まで)

休館日:日曜日・祝日・振替休日・年末年始

企画展「La Moda: Fortuny e Gallenga -ふたりの

ファッション・デザイナー」

会期:2023年10月2日(月)～12月2日(土)

会場:共立女子大学博物館

開館時間:平日10:00～17:00 土曜10:00～13:00

休館日:日曜(ただし10/15は17時まで開館)、祝日

(ただし10/9および11/3は17時まで開館)、および

10/13・10/16～18(休館日、開館時間が変更になる場合があります。)

**** 2023年度 研究例会のお知らせ ****

日時:2023年10月28日(土)13:00～15:00(予定)

開催方法:Zoomによるライブ配信

参加費:無料

講演題目:「留具から装飾品へと花開く帯留-産業財産権の出願記録からの探究-

講師:高須 奈都子氏(立命館大学衣笠研究機構 客員協力研究員、大阪商業大学非常勤講師)

申込方法:下記URLの申込みフォームにてお申込みください(10月19日(木)まで)

申込URL https://forms.gle/mql1txZuSStuJn698

問合せ先:宮武恵子(共立女子大学)

kmiyatake@kyoritsu-wu.ac.jp

会報 No.46:2023(令和5)年9月30日発行
編集発行人:服飾文化学会
事務局:102-8357 東京都千代田区三番町12
大妻女子大学ライフデザイン学科工芸デザイン研究室
TEL:03-5275-5738
E-mail:fukubunjim@gmail.com
URL:http://fukushoku-bunka-gakkai.jp/